

ご挨拶

新 春もすぎで心待ちにしていたソメイヨシノの淡い花びらが満開を迎る中、4月から新たに令和4年度の事務所協会の事業が始まろうとしています。正会員、賛助会員の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また県内14支部を運営していただいている各支部の皆様には日頃より本部事業にご賛同いただき感謝しております。



昨年より、副会長を拝命いただき須田会長のもとで微力ながら執行部の一員として、また公益社団法人千葉県建築士事務所協会の会員として事業に参加させてもらい、多くの人とのつながりができたことは私にとって良い経験となっています。

千葉会の会員の中ではほとんどが所員5人以下の小規模事務所の経営となっており情報を得るためにも設計事務所相互の連携が必要と考えます。その様な観点からも各支部の活動及び本部委員会活動への積極的な参加をお願いする次第です。また会員数が減少している今、改めて魅力がある会にしてゆくためにはまずは、会員同士のつながりを深めることから始まるものだと思っております。今後は私のできることを考えながら、協会の運営に執行部、会員とともに協力してゆく所存です。

建築の話になりますが、日本は森林大国です。国土の7割が森林で過去40年さかのぼってもほぼこの割合で推移しています。森林蓄積としての木材をみれば過去50年で3倍となっています。このことは、森林面積は変わらないので木材の蓄積として日本の林業が優れていることを示しています。また地球温暖化防止として、木造建築は他の建築物と比べて二酸化炭素排出量を4割削減できることも知られております。

国としても木材利用の補助制度等を創設し木造建築物の促進に力を入れています。一戸建住宅の木造化率は90%と高い割合の中、会員の中で戸建木造住宅の設計をしている事務所は多いと思います。新型コロナウイルスの影響で住居向け木造建築物の需要が減少していますが、木材の蓄積が増加している背景を考えれば木造公共建築物、ビルの建築需要と合わせて戸建木造住宅の需要も、もとに戻ってゆくと考えられます。また、少子高齢化の中でも住宅の建替え需要は無くなることはないと思っています。

とりとめがないことを私の事務所ごととして書いてしまいましたが、各会員皆様のご健勝と事務所のますますのご清栄を願ひまして私のご挨拶とさせていただきます。

公益社団法人 千葉県建築士事務所協会
副会長 小林 裕